サンプル

【主な連携機関と内容】

・○○市水産課:魚市場見学

・○○市環境課:環境調査 ・漁業共同組合:養殖体験

・〇〇市産業センター:関連施設見学

5年生「海と親しみ、人と関わり、海とともに生きる海洋教育の推進」

【実践のねらい】

豊かな三陸の海を素材に、自然条件と生態系との関連や自然環境と生活の関わりを追究する活動を通して、「海と共に生きる」ことの本質を捉えさせ、地域の生活や産業(水産業・観光業)について自分なりの意見をもち、地域の発展について考えさせる。海辺の環境と人々の生活との関わりについての考えを深めることができるように、磯の調査、ワカメ養殖体験、漁船乗船、関連施設見学等の体験的活動を取り入れる。自分たちの生きる地域を深く見つめ、未来像を話し合い、広く発信する活動を通して、主体的に学び、実践する力を育てる。

○時数 5月~3月 74時間 (総合的な学習の時間44、社会科22、理科8)

○関連 理科、社会科

- ○目標 (1) 「海にふれる・海を知る」活動を行うことで、児童は、海を身近なものとして捉え、「海の環境と人間生活との関わり」について、自身の課題として考えることができる。
 - (2)港に実際に足を運んで海の様子を見たり、海を生かした仕事(水産業や観光業等)に従事する人の話を聞いたりすることで、地域の現状を共感的に捉えることができるとともに、 「海と人の結びつき」の深さを実感することができる。
 - (3) 「われらの新たなみなと町」をテーマに、地域の魅力を調査し、新たな魅力を創造するために名物を考案し、実際に発信する活動を通して、「海とともに生きる」ことの意義を考え、 よりよい地域の創造に向けて意欲をもつことができる。

4月 9月 2月 3月 5月 6月 7月 8月 10月 11月 12月 1月 1. 海と生物:海に触れる 2. 海と人: 海を学ぶ ①水辺の環境調査(4) 総合 ①みなと町調査:体験活動(8)社会 ・潮だまりにいる生物の観察から、海洋生物 ・海洋生物の恵みをいかした仕事には 験的 に興味を持つ。 どんなものがあるのだろう。 海辺にはどんな生物がいるだろう。 ・水産関連施設見学や漁船乗船体験を 私たちの町ではどんな魚がとれるのだろう。 行う。 ・ワカメ養殖について体験的に学ぶ。 ②海の恵みを味わおう:体験活動 3. 海とわたしたち: 海とともに生きるために行動する (2) 総合 ②生物の生態調査(8) 理科 ・海の幸の豊かさと環境とはどんな。 ・生物の生態について調べ、海と海 ①町おこし学集会(4)総合 関係にあるのかな。 洋生物との関係について探究する。 ・海辺の環境や水産資源を活用して地域おこしを ・海の幸を味わう活動を通して、 ・調査結果を共有しあい、どのよう 行う人の思いを知る。 海の幸の豊かさを感じ取る。 な場所にどのような生物が生きてい 探究的 昔はどれくらいの人が住んでたのかな、多くの るのかを探究する。 人が来てくれた方がいいのはなぜだろう? ③郷土の食文化を調べよう(8) この生物はどんな場所にいるのだ。 な活 ろう?他の場所でも生きれるのか 社会 12? ・海の幸を用いた郷土の食文 ②地域の新たな名物を考案しよう(12)総合 化を調べ、その歴史と食べ物 ・調査したことをもとに町の新たな名物を考案 に込められた先人の想いを感 し、実習する。 じ取る。 ・水産物を作った食を考えよう、観光地をもっ と活用できないかな、民話の語り部になろう。 ③海辺の図鑑を作ろう(8) ④みなと町調査:調査活 総合 動(8) 総合・社会 それぞれが調べた生物 ・海を活かした仕事に従 ③発信「われらの新たなみなと町」(12) の生態をまとめ、海と生 事している人たちに、仕 物との関係を主題にした 事の内容や工夫、町や海 ・地域の魅力を発信する方法(ポス 海辺図鑑を作成する。 への想いについて話を聞 ターや映像等)を考え、実行する。 3現活動 図鑑はどんな特徴があ き、地域の現状を捉える。 ・地域の方々を呼んで、海洋教育 るだろう。 フォーラムを開催する。 どんな発表だとみんなに届くかな。